

(町並み版)

※ (町並み版) とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

1 龍安寺からの眺望景観

【周辺の特徴】

- ・ 境内地は東西の尾根に囲まれるように位置し、高い木立に囲まれ、周囲には天皇陵が点在する。
- ・ 地形上は南に開けてはいるが、境内や周囲の樹木により周囲の建築物等はほとんど見えない。



1-1 庫裡前石段から南への眺望
：紅葉の枝が伸び遠景は見えない。



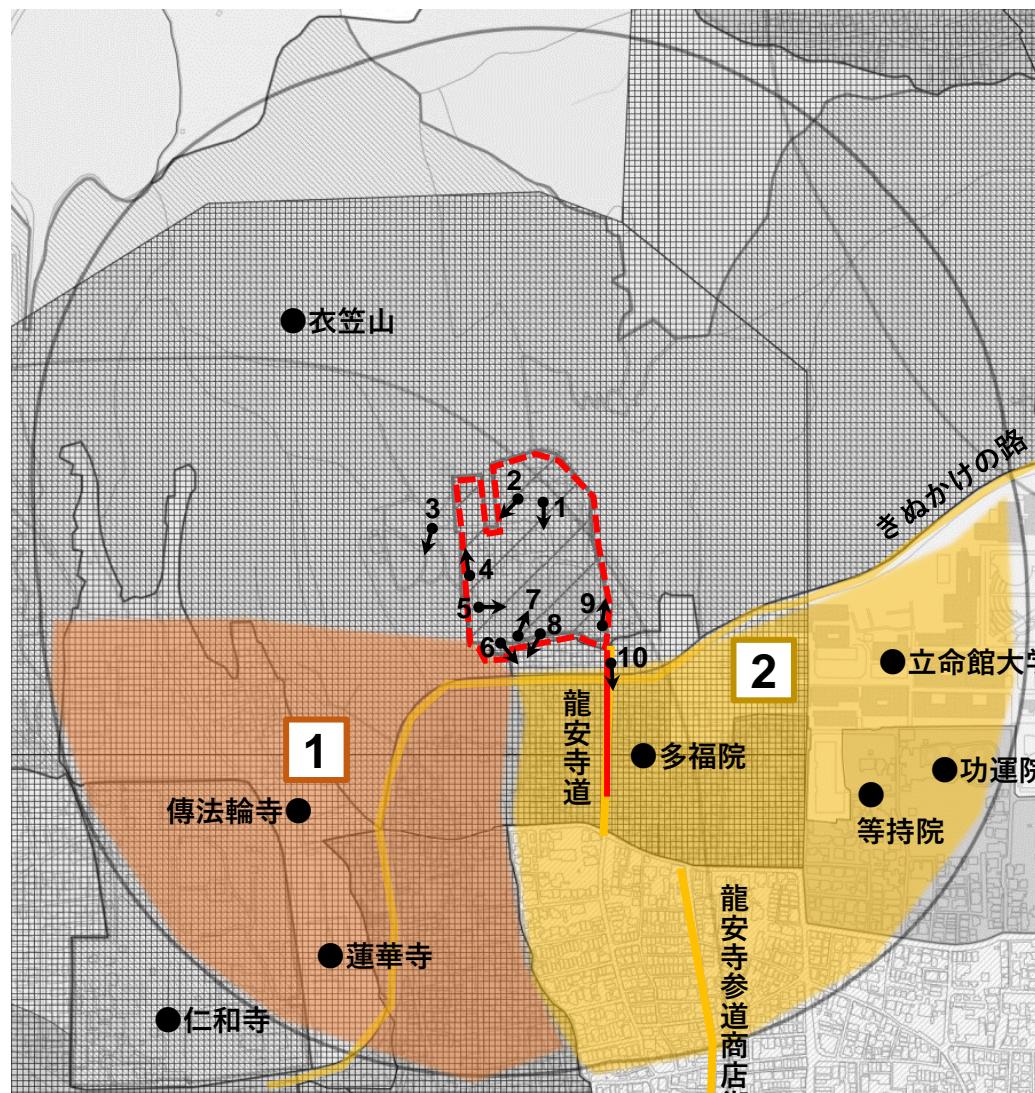
1-2 方丈前石庭から南西への眺望
：石庭土塀の外は杉が植えられ遠景は見えない。



1-3 納骨堂から南西への眺望
：境内地西の尾根が遠景は見えない。



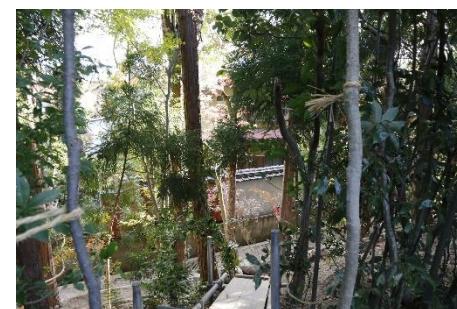
1-4 西源院西の小径から北への眺望
：境内の樹木により周囲は見えない。



--- 視点場 (境内) — 視点場 (参道等) — 主な通り



1-7 鏡容池から北への眺望
：山並みの稜線が見える。



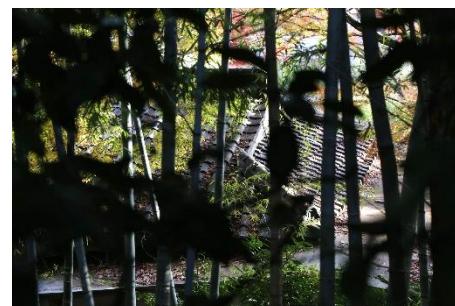
1-8 境内地南から南への眺望
：境内地南の土手の下には住宅が立ち並んでいる。



1-9 山門から北への眺望
：境内の樹木により周囲は見えない。



1-5 鏡容池から東への眺望
：境内地東の尾根が遠景は見えない。



1-6 境内地南から南への眺望
：木立の隙間から隣接する住宅の屋根が見える。



1-10 山門南から南への眺望
：境内地外でも植栽が遠景は見えない。

2 龍安寺周辺の景観

【周辺の特徴】

- ・元来、郊外の境内地であったため、古道上に重ねるように生活街路が形成された地域である。
- ・全体としては低層の住宅地が広がっている。龍安寺道沿いは、区画の大きな邸宅が見られる。



2-1 きぬかけの路から西への眺望
：低層の建築物が立ち並ぶ。



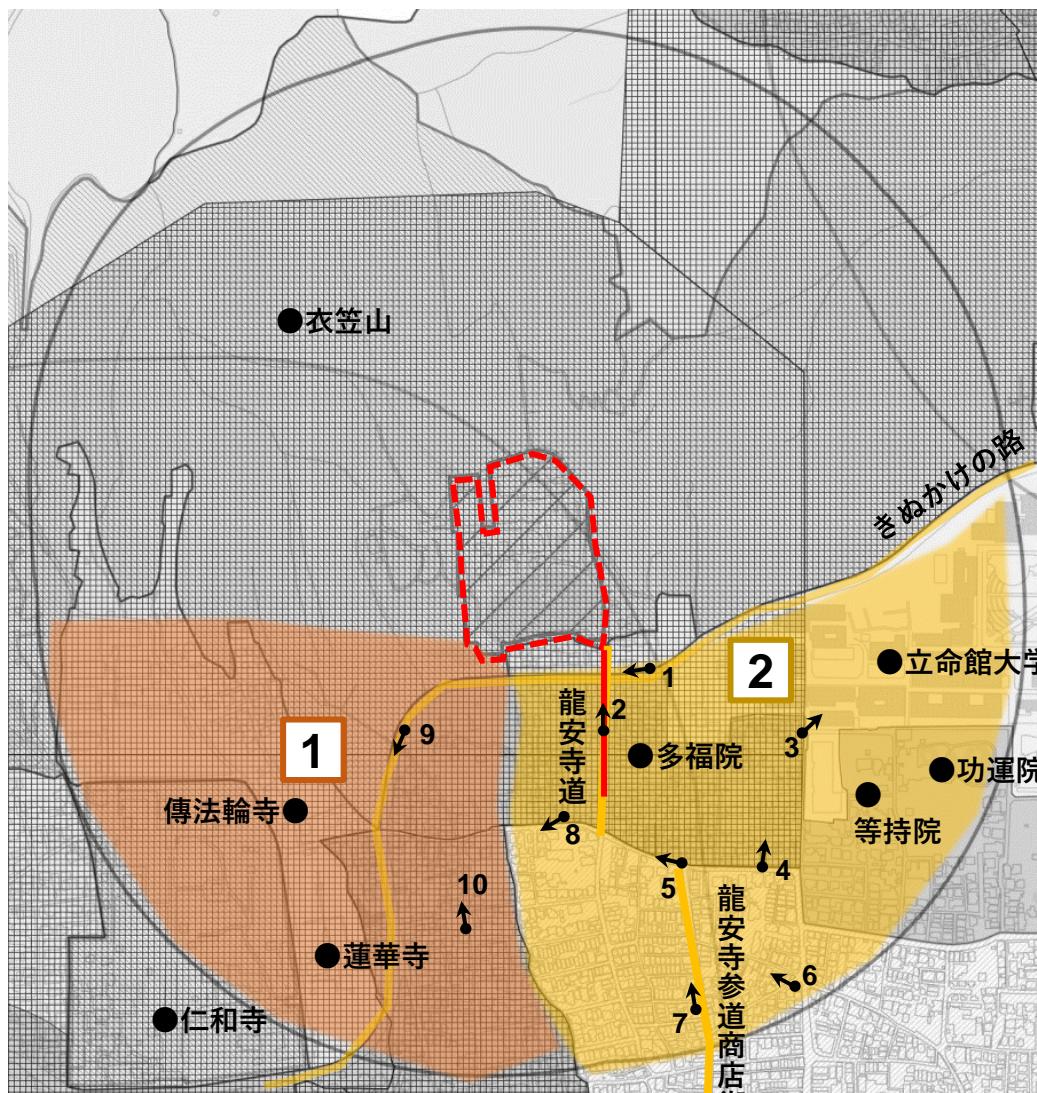
2-2 門前道から北への眺望
：低層住宅が立ち並ぶ。天皇陵の道標
があり参道でもある。



2-3 立命館大学の校舎群
：キャンパス内にはタイル貼の
大型建築物群が立ち並ぶ。



2-4 仙寿院参道から北への眺望
：参道沿いは低層住宅が立ち並ぶ。



 視点場（境内）
 視点場（参道等）
 主な通り



2-5 龍安寺道から西への眺望
：和風住宅の土塀が並ぶ町並み。
古道の道標も残る。



2-6 龍安寺斎宮町の五叉路から西への眺望
：住宅街の中にある古道と辻



2-7 龍安寺参道商店街
：妙心寺北から続く商店街。



2-8 大型の邸宅街
：敷地割の大きな近代和風住宅が点在する。



2-9 きぬかけの路から南への眺望
：傳法輪寺の石積の向かいに低層住宅が
立ち並ぶ。



2-10 住宅地から北への眺望
：邸宅が立ち並ぶ。遠方に衣笠山が見える。

3 龍安寺周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

1 龍安寺南西側		参考写真等				
ア エリアの歴史等	<ul style="list-style-type: none"> ・衣笠山と大内山との間の谷口にあたることから、古くは「谷ノ口」と称したが、室町期に龍安寺が創建され同寺領となったため「龍安寺門前」と改称された。明治中期の地図では、田・桑畑・茶畑が確認できる耕作地であった。 ・大正14年(1925)京都電燈により現京福電気鉄道北野線の北野駅(現北野白梅町駅)－高雄口駅(現宇多野駅)間が開業、田園地帯を貫いて鉄道軌道が設けられ「龍安寺駅」と「等持院駅」が新設された(図3-1)。 	 <p>3-1 「最新京都市街地図」昭和3年(1928)</p>				
イ 町並みの特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・龍安寺の南西側には、傳法輪寺や蓮華寺などの寺社が立ち並んでおり、その北側に一部住宅地があるが、生垣や庭の樹木など緑が豊かな閑静な住宅地となっている。 ・きぬかけの路以東には、住吉大伴神社をはじめ、寺社が多く立地している。その周囲は閑静な住宅地となっている。 ・昭和初期以降徐々に市街化が進んだ地域であり、戦後に立てられた住宅が多いが、生垣や緑が多く配され、落ち着いた町並みが続いている。 ・エリア内の南北の通りからは、北に衣笠山を望むことができ、歴史を感じさせる風景が身近にある地域である。 	 <p>3-2 傳法輪寺と住宅地の町並み</p>				
ウ 景観形成方針	<table border="1"> <tr> <td>風致地区</td> <td>仁和寺・龍安寺周辺特別修景地域</td> </tr> <tr> <td>衣笠山から西山に連なる山地の南麓部をしっかりと押さえる格好で仁和寺・龍安寺の大きな境内地が立地し、市街地においても宅地も中規模以上の地域が多く、緑化が行き届いた住宅地が形成されている。</td> <td>仁和寺及び龍安寺の境内の緑と一体となった景観を保全する。 きぬかけの路沿道では、門前景観の形成を図る。</td> </tr> </table>	風致地区	仁和寺・龍安寺周辺特別修景地域	衣笠山から西山に連なる山地の南麓部をしっかりと押さえる格好で仁和寺・龍安寺の大きな境内地が立地し、市街地においても宅地も中規模以上の地域が多く、緑化が行き届いた住宅地が形成されている。	仁和寺及び龍安寺の境内の緑と一体となった景観を保全する。 きぬかけの路沿道では、門前景観の形成を図る。	 <p>3-3 仁和寺の東から南への眺望</p>
風致地区	仁和寺・龍安寺周辺特別修景地域					
衣笠山から西山に連なる山地の南麓部をしっかりと押さえる格好で仁和寺・龍安寺の大きな境内地が立地し、市街地においても宅地も中規模以上の地域が多く、緑化が行き届いた住宅地が形成されている。	仁和寺及び龍安寺の境内の緑と一体となった景観を保全する。 きぬかけの路沿道では、門前景観の形成を図る。					
エ 建築計画等に求める配慮事項	<p>これらの緑豊かな和風空間の維持を図る。また市民の日常的な、緑あふれる憩いの場として保全を図り、周辺では低層住宅地域による周辺環境の保全を図る。</p> <p>敷地規模に留意し、建築物は、原則として日本瓦ぶき和風外観とする。きぬかけの路沿道では、原則として軒の連なりに配慮した切妻平入形式とする。</p>	 <p>3-4 住吉大伴神社の南付近の町並み</p>				

2 龍安寺南東側		参考写真等						
ア エリアの歴史等	<ul style="list-style-type: none"> ・龍安寺門前は「京いなり山、高雄山、龍安寺など松茸名物地(日本山海名物図会)」とマツタケの産地として江戸中期は有名であった。 ・大正10年(1921)マキノ省三が等持院塔頭跡地に牧野教育映画製作所と映画撮影所を設けられ、1933年(昭和8年)まで存続した。 ・昭和中期の地図(図3-5)では、新たに道路が築造され宅地化が進んでいることがわかる。 	 <p>3-5 「京都市都市計画基本図」昭和28年(1953)</p>						
イ 町並みの特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・等持院など歴史的に有名な寺社に囲まれた地域で、寺社間をつなぐように古道が自然地形に合わせて曲線状になっているのが特徴的である。 ・京福電鉄の開通を機に、昭和初期以降開発が進んだ地域であり、古くからある寺社の周囲に、低層の住宅地が広がっている。 ・龍安寺道をはじめ古道沿いには、大きな邸宅も散見される。龍安寺の近くでは、生垣や庭の樹木なども多く、落ち着いた風情の町並みとなっている。 ・京福電鉄龍安寺駅から龍安寺に至る龍安寺道沿いには、龍安寺参道商店街の商店が立ち並んでいる。 ・南北の通りからは、北に衣笠山を望むことができ、宇多天皇が山に白絹をかけて雪に見立てたとの故事を思い起こさせるなど、歴史を感じさせる風景が身近にある地域である。 ・立命館大学のキャンパス内には、大規模な建築物が立ち並んでいる。 <p>文化財等：櫻谷文庫、杉江家</p>	 <p>3-6 龍安寺道の町並み</p>						
ウ 景観形成方針	<table border="1"> <tr> <td>風致地区</td> <td>仁和寺・龍安寺周辺特別修景地域</td> <td>山ろく型建造物修景地区</td> </tr> <tr> <td>龍安寺門前地区では、参道両側では各戸が厚みのある生垣を植え、伝統的和風建築が沿道から後退して樹木の間に見える。門前通り周辺の住宅地は、生垣・和風塀が連坦した統一感のある和風空間を呈している。これらの風致の維持を図る。</td> <td>龍安寺参道では、生垣等の連続した緑豊かな落ち着いた町並みを保全する。</td> <td>歴史的資産があり、その周辺は山ろくの自然景観に調和する良好な景観を形成する地域である。</td> </tr> </table>	風致地区	仁和寺・龍安寺周辺特別修景地域	山ろく型建造物修景地区	龍安寺門前地区では、参道両側では各戸が厚みのある生垣を植え、伝統的和風建築が沿道から後退して樹木の間に見える。門前通り周辺の住宅地は、生垣・和風塀が連坦した統一感のある和風空間を呈している。これらの風致の維持を図る。	龍安寺参道では、生垣等の連続した緑豊かな落ち着いた町並みを保全する。	歴史的資産があり、その周辺は山ろくの自然景観に調和する良好な景観を形成する地域である。	 <p>3-7 龍安寺参道商店街</p>
風致地区	仁和寺・龍安寺周辺特別修景地域	山ろく型建造物修景地区						
龍安寺門前地区では、参道両側では各戸が厚みのある生垣を植え、伝統的和風建築が沿道から後退して樹木の間に見える。門前通り周辺の住宅地は、生垣・和風塀が連坦した統一感のある和風空間を呈している。これらの風致の維持を図る。	龍安寺参道では、生垣等の連続した緑豊かな落ち着いた町並みを保全する。	歴史的資産があり、その周辺は山ろくの自然景観に調和する良好な景観を形成する地域である。						
エ 建築計画等に求める配慮事項	<p>龍安寺参道では、敷地規模に留意し、原則として道路側において後退距離を十分に確保し、植栽帯を設ける。</p> <p>歴史的資産等の周辺では、勾配屋根を設け、壁面の色彩を暖色系の自然素材色とするなど、和風基調の町並み景観を形成する。</p>	 <p>3-8 参道の名残を残す道標</p>						

- 3-1 「最新京都市街地図」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
- 3-5 「京都市都市計画基本図」近代京都オーバーレイマップ (<http://www.arc.ritsumei.ac.jp/archive01/theater/html/ModernKyoto>)